

# 平成26年度 明倫小学校 第3回 学校関係者評価委員会

平成27年1月28日(水)開催

## ■学校関係者評価委員

梅地 信吾	元明倫小学校長	元児童相談所相談員
富川 芳人	元県PTA連合会会長	元明倫小学校PTA会長
村田 明美	萩市児童クラブ指導者	萩市人権擁護委員
三上智奈美	元明倫小学校PTA副会長	主任児童委員
岩崎喜一郎	明倫小学校PTA顧問	(※欠席)
大嶋 栄	前明倫小学校PTA会長	
榮 中	明倫小学校PTA会長	(※欠席)
柳林 浩一	明倫小学校	校長
矢野 憲文	明倫小学校	教頭
村重 淳子	明倫小学校	教頭

## ■学校評価(後期)について ~主な意見~

### ○特色ある学校づくり「松陰教学の推進」

- ・明倫小を出た先生が朗唱を広げているという話を聞く。「花燃ゆ」を見ることで萩に誇りをもってほしい。

### ○特色ある学校づくり「積極的な情報発信」

- ・欠席連絡が書いてある連絡帳をもっての子に出会った。個別の対応を丁寧にさせていただくとありがたい。

### ○学力の向上「家庭学習の充実」

- ・家庭では、睡眠時間をしっかり取らなければならない。学習時間も必要である。その兼ね合いが大切。家庭での勉強の仕方を教えていくのは教師の仕事。家での時間の過ごし方(学習時間の確保の仕方)は、一週間くらいの期間を切って「帰ってからの時間割作り」も効果的である。児童の実態をつかんで先生からの個別指導をするとよい。
- ・アウトメディア作戦という取組を以前、PTA保健体育部で行ったことがあるが、子ども以上に親の感動が大きかった。このように家族で話し合う企画を設けると自分達で考え、自分達で行動するようになる。例えば、「いつご飯?」「いつ片付け?」「いつ家族の時間が取れる?」・・・と親子共に計画的になる。保護者と教職員とPTA保健体育部との連携が大切である
- ・「やまぐちっ子学習プリント」を家庭学習として取り組んでいる保護者もいる。保護者に活用方法を知らせていくとよい。
- ・学年によっては、宿題の量に対して意見がある。算数の能力差で同じ量に対しても賛否がある。

### ○学力の向上「高め合う活動の充実」

- ・能力に差が出てくるが、書くことで力がついているのがわかる。時間内で書けない児童は担任が放課後に残して書かせてくださっている。ありがたい。学童保育と保護者、教職員との連携が必要である。

### ○心の教育の充実「明倫小A あいさつ」

- ・あいさつは必要である。NHKの「あさイチ」という番組で、全国からのファックスの紹介があった。その中の一つに「萩の子どもがよくあいさつをしてくれた。」という一文があった。萩は、小さいまちでも、よくあいさつを子どもがするということから学校の指導も評価される。萩の地域の雰囲気もよくなる。
- ・ドラマ館の前が通学路になっているため、来客者に自分からあいさつをする子が増えると、萩のいい印象をもってもらえる。いい捉え方をしてもらえる。これは、小・中連携で取り組むとよい。

### ○心の教育の充実「明倫小B 無言清掃」

- ・「だまってそうじプロジェクト」で赤帽子を活用することにより、目に見えて子ども達がよく変化していくことがわかった。整美委員会や学級会で話し合い、子ども達からめあてをもつことはすばらしい。主体的に子ども同士で考えながら取り組んだのがよかった。
- ・新校舎としての効果(環境の変化)もある。

### ○心の教育の充実「明倫小C 自ら主体的に取り組む活動」

- ・主体性を大事にしたものが大切である。

### ○安心・安全な環境づくり「安心な環境づくり」

- ・職員室が一つになったため、すぐに相談できるし、他の学年が手助けできる。連携のスピードが違ってきている。
- ・早期解決が望ましいが、長い目で見ることも必要である。ケース バイ ケースである

ので引き継ぎをしっかりとしていくことが重要である。

- ・暴力の問題がある学年があるのに高い評価になっているのは疑問である。
- ・小さい頃は、たたいたり、押したりする関わり合いの中で相手のことが分かっていくのではないだろうか。
- ・運動会後ぐらいから、配慮を要する子どもが出てきやすい。学校一丸となって対応することが重要になる。保護者・学童保育・担任との連携が必要で、みんなの見守りが大切。小・中連携も大切。

**○安心・安全な環境づくり「安全な環境づくり」**

- ・教員の評価が10%も高くなったのは、落ち着きが目に見えてきているということである。子ども達が落ち着くと、先生の気持ちも安定する。

**○業務改善「会議の時間短縮」「勤務状況の改善」**

- ・みんなで意見を出しながら変えていくことが必要である。。